

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-286363

(43) 公開日 平成5年(1993)11月2日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup>

B 6 0 J 3/02

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

D 7816-3D

B 7816-3D

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平4-118173

(22) 出願日 平成4年(1992)4月10日

(71) 出願人 000247166

株式会社ネオックスラボ

愛知県豊田市陣中町2丁目19番地6

(72) 発明者 三輪 紀道

愛知県豊田市陣中町2丁目19番地6 株式

会社ネオックスラボ内

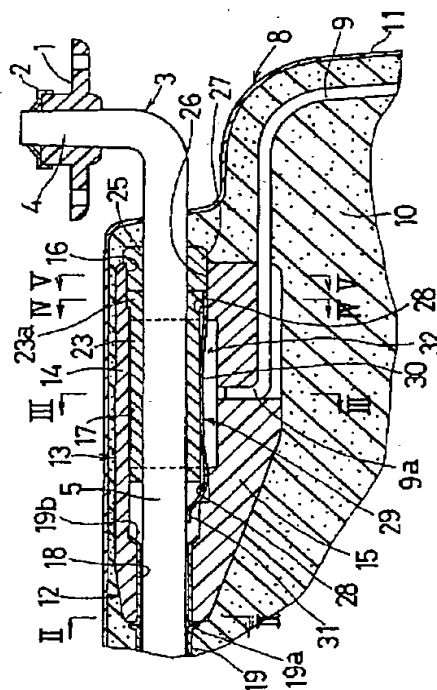
(74) 代理人 弁理士 岡田 英彦 (外2名)

(54) 【発明の名称】 車両用サンバイザ

(57) 【要約】

【目的】 支軸の横軸体の軸方向にサンバイザ本体を引出し及び押込み可能に構成することで、最適な状態で遮光することができるとともに、サンバイザ本体を所定の引出端位置において係止する。

【構成】 サンバイザ本体8に内装された軸受部材12には、サンバイザ本体8の長手方向に延びる中空の延長筒19が設けられる一方、支軸3の横軸体5は延長筒19の筒内に挿入される位置まで延出されることで、横軸体5の横方向にサンバイザ本体8が引出し及び押込み可能に構成される。係止部材29は、横軸体5の軸方向に平行しかつ横軸体5の係合面に圧接する平板状のばね板より形成される。横軸体5に対しサンバイザ本体8が所定の引出し端位置まで引出されたときに横軸体5の先端部外周面の係合凹部7と係合する抜止片31が係止部材29の一端から一体に延出されている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 L字状の支軸がその縦軸体において取付部材によって車体に装着され、前記支軸の横軸体にサンバイザ本体が、該本体の上部に内装された軸受部材において嵌装され、前記軸受部材には前記横軸体の軸回りに対しサンバイザ本体を車室天井面に沿う格納位置に回動したときに同横軸体の外周に設けられた係合面と係合する係止部材が組付けられた車両用サンバイザであって、前記軸受部材には、前記サンバイザ本体の長手方向に延びる中空の延長筒が設けられる一方、前記横軸体は前記延長筒の筒内に挿入される位置まで延出されることで、前記横軸体の軸方向に前記サンバイザ本体が引出し及び押込み可能に構成され、

前記係止部材は、前記横軸体の軸方向に平行しかつ前記横軸体の係合面に圧接する平板状のばね板より形成され、

前記横軸体に対し前記サンバイザ本体が所定の引出し端位置まで引出されたときに前記横軸体の先端部外周面の係合凹部と係合する抜止片が前記係止部材の一端から一体に延出されていることを特徴とする車両用サンバイザ。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は車両用サンバイザに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、車両用サンバイザは、そのサンバイザ本体に、支軸の横軸体が回動可能に嵌挿される軸受部材が内装される。この軸受部材には、サンバイザ本体が格納位置に配置されたときに横軸体の外周に面取り形成された係合面に係合して、サンバイザ本体を車室天井面に沿う格納位置に係止保持する係止部材が組付けられる。さらに、軸受部材と横軸体との相互には、横軸体の軸方向に対するサンバイザ本体の移動を阻止して同サンバイザ本体の抜止めをなす抜け止め手段が設けられる。そして、格納位置にあるサンバイザ本体が、支軸の横軸体の係合面と係止部材との係合力に抗して横軸体の軸回りに回動されることで、フロントガラスに沿うフロント遮光位置に配置される。さらに、前記フロント遮光位置にあるサンバイザ本体が支軸とともに、その支軸の縦軸

み、支軸の横軸体の軸方向にサンバイザ本体を引出し及び押込み可能に構成することで、最適な状態で遮光することができるとともに、サンバイザ本体を所定の引出端位置において係止することができる車両用サンバイザを提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するために、この発明は、L字状の支軸がその縦軸体において取付部材によって車体に装着され、前記支軸の横軸体にサンバイザ本体が、該本体の上部に内装された軸受部材において嵌装され、前記軸受部材には前記横軸体の軸回りに対しサンバイザ本体を車室天井面に沿う格納位置に回動したときに同横軸体外周に設けられた係合面と係合する係止部材が組付けられた車両用サンバイザであって、前記軸受部材には、前記サンバイザ本体の長手方向に延びる中空の延長筒が設けられる一方、前記横軸体は前記延長筒の筒内に挿入される位置まで延出されることで、前記横軸体の軸方向に前記サンバイザ本体が引出し及び押込み可能に構成され、前記係止部材は、前記横軸体の軸方向に平行しかつ前記横軸体の係合面に圧接する平板状のばね板より形成され、前記横軸体に対し前記サンバイザ本体が所定の引出し端位置まで引出されたときに前記横軸体の先端部外周面の係合凹部と係合する抜止片が前記係止部材の一端から一体に延出されている。

【0006】

【作用】前記したように構成される車両用サンバイザにおいて、サンバイザ本体が車室天井面に沿う格納位置に配置された状態においては、横軸体の係合面と係止部材との係合力によってサンバイザ本体が格納位置に保持される。前記格納位置にあるサンバイザ本体が前記係合面と係止部材との係合力に抗して横軸体の軸回りに回動されることで、同サンバイザ本体がフロントガラスに沿うフロント遮光位置に配置される。前記フロント遮光位置にあるサンバイザ本体が、支軸とともに、その支軸の縦軸体の軸線回りに回動されることで、同サンバイザ本体がサイドガラスに沿うサイド遮光位置に配置される。

【0007】前記サンバイザ本体がサイド遮光位置に配置された状態において、横軸体の軸方向へサンバイザ本体が適宜に引出されることで、サイドガラスから入射する光が最適な状態で遮光される。また、サンバイザ本体が所定の引出し端位置まで引出されると、横軸体の係合

体4において回動可能に嵌挿され、止め金具2によって止着されている。

【0009】前記支軸3の横軸体5はサンバイザ本体8の長手方向に延びかつ後述する軸受部材12の軸受本体13を通して延長筒19の筒内に挿入される位置まで延出されている。横軸体5の外周面片側には図2～図5に示すように平坦面6が面取り状に形成され、さらに、横軸体5の先端寄り外周面には係合凹部7が形成されている。

【0010】前記横軸体4の軸回りに回動可能でかつ横軸体4の軸方向へ引出し及び押込み可能に装着されるサンバイザ本体8は、上部の中央部を除く周囲に骨枠9が内装されたクッション材10と、該クッション材10を被覆する外装皮11とを主体として構成されている。サンバイザ本体8の上部には、前記骨枠9に固定された状態で軸受部材12が内装されている。軸受部材12は、軸受本体13と延長筒19と固定体20とを主体として構成されている。

【0011】車両用サンバイザの要部を拡大正断面で表わした図1において、軸受本体13は、合成樹脂よりなりかつ筒部14と脚部15とを上下部に一体に備えている。そして下部の脚部15において、骨枠9の一端部9aに固定されている。

【0012】軸受本体13の筒部14の中心部には、その一端から他端（図1において右端から左端）にわたって、大径の嵌込孔16、中径の軸受孔17及び小径の連結孔18が順次連通して同一中心線上に貫設されている。前記軸受本体13の連結孔18には、サンバイザ本体8の長手方向に延びかつ中空の金属製パイプよりなる延長筒19が、その基端部において結合されている。すなわち、延長筒19の基端部寄り外周面に突設されたフランジ部19aが軸受本体13の端面に当たる位置まで延長筒19の基端部が連結孔18に嵌挿され、その延長筒19の基端部19bが前記連結孔18と軸受孔17との段差面において掛けられることで、軸受本体13に延長筒19が結合される。

【0013】前記延長筒19の先端には合成樹脂よりなる固定体20が結合されている。固定体20は、図6に示すように、骨枠9の他端に固定される脚部22と延長筒19の先端部に嵌挿される軸部22とを一体に備えている。そして、固定体20の軸部22と延長筒19との嵌合部において、同延長筒19の外周面の一部がかしめられることでこれら両者が結合される。これによって延長筒19の延長端が固定体20を介して骨枠9の他端部9bに固定されるようになっている。

【0014】軸受本体13の軸受孔17には、図1、図3及び図4に示すように、合成樹脂よりなる短尺な筒軸23が回動可能に嵌挿されている。この筒軸23の中心には、横軸体4が回止めされかつ軸方向へは相対移動可能に断面略円形状の嵌合部が貫設され、同筒軸23の外

周面片側の筒方向には面取り状の平坦な係合面24形成されている。さらに、筒軸23の一端部外周面には、図1に示すように一端が軸受孔17と嵌込孔16との間の段差面に接し、他端が嵌込孔16内に圧入されるエンドキャップ25に接することで、筒軸23の軸方向への移動を阻止するためのフランジ23aが形成されている。また、前記嵌込孔16と、エンドキャップ25の外周面との相互には図5に示すように回止め溝26と係合凸部27とがそれぞれ形成され、エンドキャップ25の中心部には、横軸体5が回動及び軸方向へ相対移動可能に嵌挿される断面円形の軸孔が形成されている。

【0015】軸受本体13の軸受孔17の下部には、図1と図4に示すように、前記回止め溝26と連続して凹溝28が形成されており、その凹溝28内には係止部材29が組付けられる。係止部材29は、平帯状のばね板より形成され、その一端部寄り部分が凹溝28の底面と筒軸23のフランジ23a外周面との間に挟持された状態で片持ち状に支持されている。係止部材29の中央部は、筒軸23の外周面下部に向けて湾曲されて係止部30とされている。そして、サンバイザ本体8が横軸体5の軸回りに回動されて車室天井面に沿う格納位置に配置されたときに前記係止部30が筒軸23の係合面24と係合することで、前記サンバイザ本体8が車室天井面に沿う格納位置に保持されるようになっている。

【0016】さらに、係止部材29の先端には、横軸体5の外周面に向けて抜止片31が延出されており、図7に示すように、横軸体5に対しサンバイザ本体8が所定の引出し端位置まで引出されたときに、前記抜止片31が横軸体5の係合凹部7と係合することで、サンバイザ本体8の離脱が防止されるようになっている。

【0017】また、軸受本体13の筒部14の長手方向中央部の両側部にはその軸受孔17の内周面両側部を開口させる切欠状の開口窓32が形成されており、この開口窓32を通して係止部材29が容易に組付けられるようになっている。

【0018】この実施例1は上述したように構成される。したがってサンバイザ本体8が車室天井面に沿う格納位置に配置された状態においては、筒軸23の係合面24と係止部材29の係止部30とが係止し、これら係合面24と係止部30との係合力によってサンバイザ本体8が格納位置に保持される。

【0019】前記格納位置にあるサンバイザ本体8が前記係合面24と係止部30との係合力に抗して横軸体5の軸回りに回動されることで、同サンバイザ本体8がフロントガラスに沿うフロント遮光位置に配置される。この状態においてフロントガラスから入射される光が前記サンバイザ本体8によって遮光される。

【0020】前記フロント遮光位置にあるサンバイザ本体8が、支軸3とともに、その支軸3の縦軸体4の軸線回りに回動されることで、同サンバイザ本体8がサイド

ガラスに沿うサイド遮光位置に配置される。この状態において、サイドガラスから入射される光が前記サンバイザ本体8によって遮光される。

【0021】前記サイドガラスから入射される光の向きが横方向、斜め後方等であり、前記サイド遮光位置にあるサンバイザ本体8によって適切に遮光されない場合には、横軸体5に対しサンバイザ本体8が後方へ適宜に引出されることで前記光が最適な状態で遮光される。

【0022】また、サンバイザ本体8が所定の引出し端位置まで引出されると、図7に示すように横軸体5の係合凹部7に係止部材29の抜止片31が係合し、これ以上のサンバイザ本体8の引出しが阻止されることから横軸体5に対しサンバイザ本体8が離脱される不具合が防止される。

【0023】(実施例2)次に、この発明の実施例2を図8～図12にしたがって説明する。この実施例2において、サンバイザ本体8の上部に内装される軸受部材112は、軸受本体113と、該軸受本体113の両端に結合される第1、第2の固定体120、20とを主体として構成されている。

【0024】第1の固定体120は合成樹脂よりなりかつ図8と図9に示すように筒部121と脚部122とを上下部に一体に備えている。そして下部の脚部122において骨枠9の一端部9aに固定されている。筒部121の一端面には、軸部123が突設され、その軸部123が軸受本体113の基端部に嵌挿される。前記軸部123と軸受本体113との嵌合部において、軸受本体113の外周面の一部がかしめられることで、これら両者が結合される。さらに、第1の固定体120には、その筒部121の中心から軸部123にわたって支軸3の横軸体4が回動並びに軸方向へ相対移動可能に嵌挿される軸受孔が貫設されている。

【0025】第2の固定体20は、合成樹脂よりなりかつ骨枠9の他端部9bに固定される脚部21と軸受本体113の延長筒115の端部に嵌挿される軸部22とを一体に備えている。そして、軸部22と延長筒115との嵌合部において延長筒115の外周面の一部がかしめられることで、これら両者が結合される。

【0026】前記したように、第1、第2の両固定体120、20に両端部が結合された軸受本体113は、同径で連続する1本の金属パイプよりなり、図8において右半部を軸受筒114とし、左半部を延長筒115としている。軸受本体113の軸受筒114には、その中心孔を軸受孔として短尺な筒軸124が回動可能に嵌挿されている。この筒軸124は、実施例1の筒軸23と略同様に形成され、その中心に貫設された嵌合孔には、図11に示すように横軸体5が軸方向へは相対移動可能に回止めされて嵌挿される。

【0027】軸受本体113の軸受筒114の下部に

開口部116が形成されており、該開口部116には係止部材129が配設される。係止部材129は、図12に示すように平帯状のばね板より形成され、その両端部には、軸受筒114の開口部からその外周面両側に沿って取付片130がそれぞれ延出されている。そして、これら各取付片130の先端部が図10に示すように軸受筒114に貫設された角孔状の取付孔130に差込まれて折曲されることで、軸受筒114に係止部材129が取付けられる。さらに、前記各取付片130の先端の折曲片131は、図8に示すように筒軸23の両端部に接して位置し、これによって軸受筒114の所定位置に筒軸124が軸方向へ移動不能に保持されるようになっている。

【0028】前記係止部材129は、軸受筒114の開口部116に位置するとともに、筒軸124の外周面に向けて湾曲され、その湾曲部を係止部132としている。そして、サンバイザ本体8が横軸体5の軸回りに回動されて、車室天井面に沿う格納位置に配置されたときに前記係止部132が筒軸124の係合面125と係合することで、前記サンバイザ本体8が格納位置に保持されるようになっている。

【0029】さらに、係止部材129の先端には、横軸体5の外周面に向けて抜止片133が延出されており、サンバイザ本体8が横軸体5の軸方向へ格納されて引出し位置まで引出されたときに、前記抜止片133が横軸体5の先端寄り外周面に凹設された係合凹部7と係合することで、サンバイザ本体8の抜止めがなされるようになっている。

【0030】その他の構成部品及び部材は実施例1とほぼ同様であるから、同一部品及び部分に対し同一付号を付してその説明は省略する。

【0031】なお、前述した実施例2においては、軸受本体113の軸受筒114と延長筒115とが同一断面の平行パイプによって構成される場合を例示したが図に示すように、横軸体5が相対的に移動可能に嵌挿される程度に延長筒115を小径に形成してもよい。

【0032】

【発明の効果】以上述べたように、この発明によれば、サンバイザ本体がサイド遮光位置に配置された状態において、横軸体の軸方向へサンバイザ本体が適宜に引出されることで、サイドガラスから入射する光を最適な状態で遮光することができる。さらに、横軸体に対しサンバイザ本体が所定の引出し端位置まで引出されたときには、横軸体の係合凹部に抜止片が係合することで、サンバイザ本体の離脱を防止することができる。しかも、抜止片が係止部材の一端から一体に延出されて形成されるため、部品点数や組付工数を軽減することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施例1の車両用サンバイザの要部

7

8

【図2】図1のII-II線断面図である。

【図3】図1のIII-III線断面図である。

【図4】図1のIV-IV線断面図である。

【図5】図1のV-V線断面図である。

【図6】車両用サンバイザを一部破断して示す正面図である。

【図7】横軸体に対しサンバイザ本体を引出し端位置まで引出した状態を一部破断して示す正面図である。

【図8】この発明の実施例2の車両用サンバイザを一部破断して示す正面図である。

【図9】図8のIX-IX線断面図である。

【図10】図8のX-X線断面図である。

【図11】図8のX1-X1線断面図である。

【図12】係止部材を示す斜視図である。

【図13】実施例2の軸受部材を変更した車両用サンバイザを一部破断して示す正面図である。

【符号の説明】

3 支軸

4 縦軸体

5 横軸体

7 係合凹部

8 サンバイザ本体

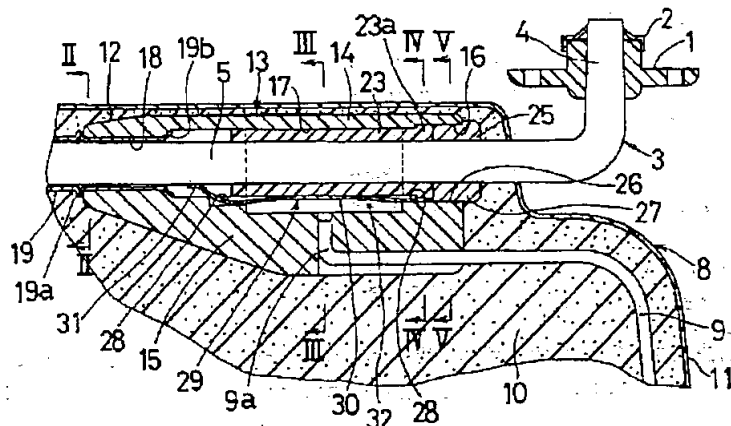
10 12 軸受部材

19 延長筒

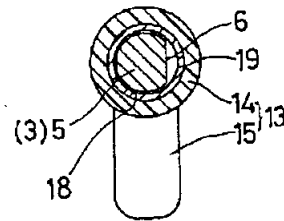
29 係止部材

31 抜止片

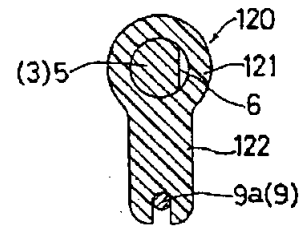
【図1】



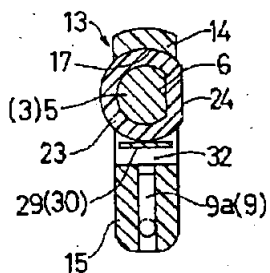
【図2】



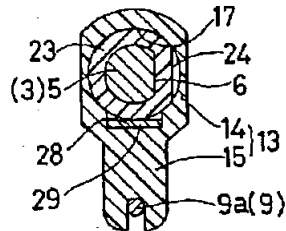
【図9】



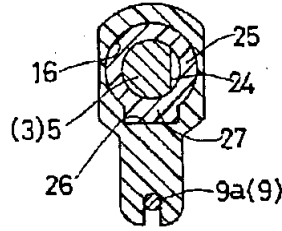
【図3】



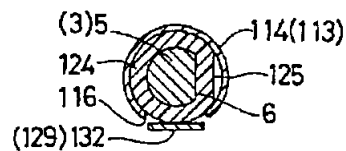
【図4】



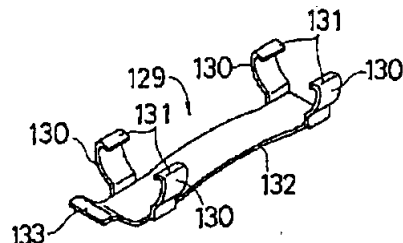
【図5】



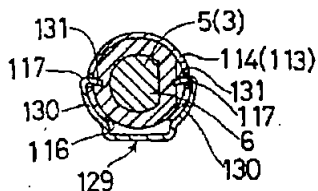
【図11】



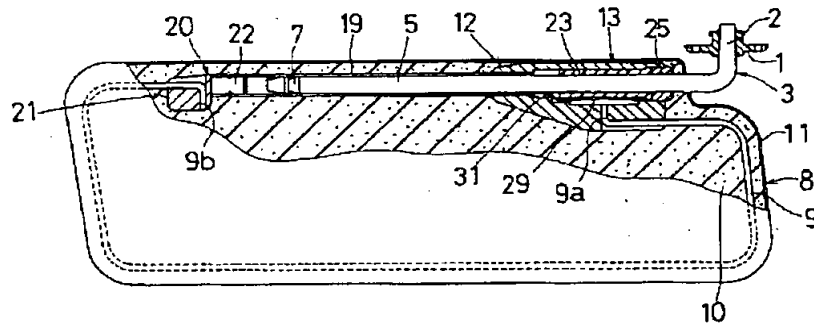
【図12】



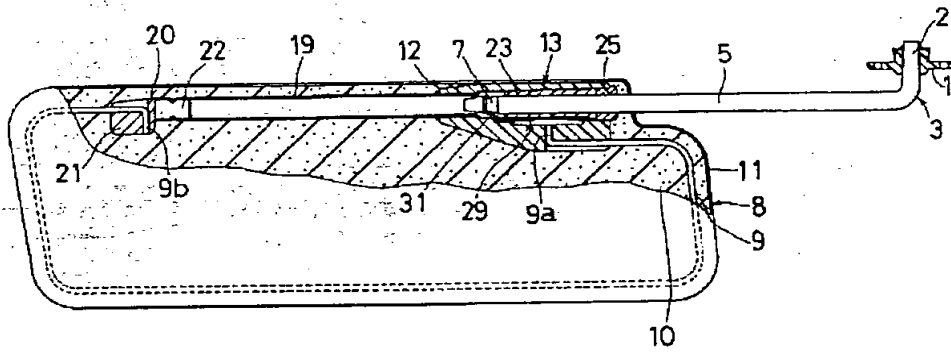
【図10】



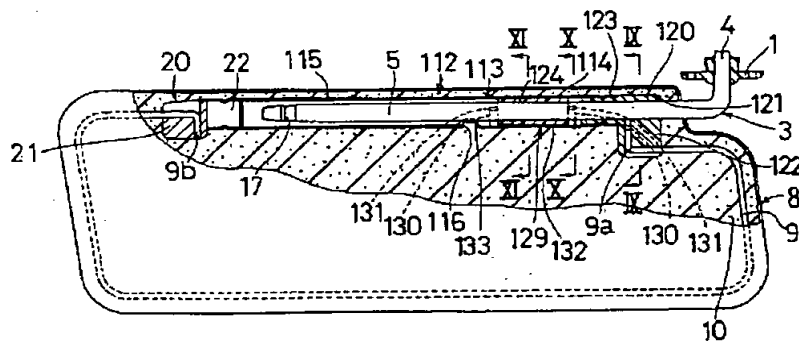
【図6】



【図7】



【図8】



【例 13】

